

1－(4) アプリケーションによる個別指導②(11月～2月)

アプリケーションによる個別指導②の実施手順

- ① アプリケーションを起動する。
- ② ユーザー名を登録する(2回目以降は登録済のユーザー名を使用)。
- ③ 「ひらがな単音」を選択する。
- ④ 練習を開始する(表示される直音+よう音を児童に発音させる。)。
指導する大人が○、×を判断して押す。
○：音声が出る前に読めた場合
×：読めない(読み間違い)又は音声が先
(同時)に出た場合
- ⑤ 5分経過し、アプリケーションが自動的に終了するまで音読を進める。



- 1日1回5分間の個別指導を連続して21日以上行う。
- 3回正答した文字は消去されていく。学習効果が上がった場合、指導時間は短くなる。
- 学習後、結果を見ながら児童と共に学習成果を振り返ることができる。

1－(5) 第3回 単音・単文音読検査（2月実施）

第3回 単音・単文音読検査は、単音音読検査と単文音読検査を実施します。

単音音読検査は第2回 単音音読検査で実施した検査、単文音読検査は短い文を3文読む検査です。

- 対象児童：第2回 単音音読検査後、アプリケーションによる個別指導②を実施した児童
- 実施時期：2月頃

ア 単音音読検査 16ページ参照

第2回 単音音読検査と同じ検査です。

ただし、判断の基準が異なります。

【単音音読検査 結果の判断基準】

- ① 音読表(50文字)を全て読み終えるのに要した時間が67秒以上
- ② 「読み飛ばし文字数」と「読み誤り文字数」の合計が9文字以上

イ 単文音読検査

準備する物

- ・単文音読検査表（3枚）38ページ参照
- ・単文音読検査記録用紙38ページ参照（児童の人数分）
- ・ストップウォッチ
- ・実施場所と実施体制の確保

実施手順

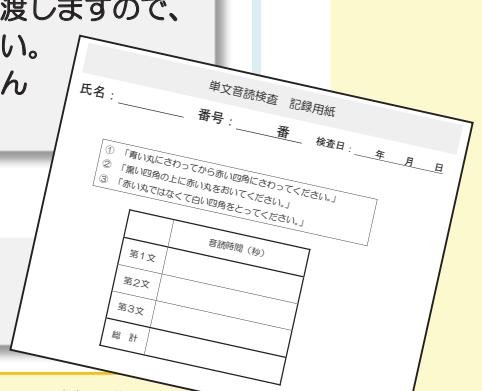
- ① 児童の前に単文音読検査表を置く。



「文章を書いたカードを渡しますので、声を出して読んでください。順番に3枚のカードを読んでもらいます。」

- ② カードを手渡し、第1文を読み始めたらストップウォッチのスタートを押す。第1文を読み終わったらストップウォッチを止め、音読時間を記録する。

「では始めます。スタート」



単文音読検査 記録用紙	
氏名 :	番号 : <input type="text"/> 番
検査日: 年 月 日	
音読時間 (秒)	
第1文	
第2文	
第3文	
総計	

- ③ 第2文、第3文と同様に測定し、三つの文の音読時間の合計（秒）を記録用紙に記入する。

【単文音読検査 結果の判断基準】
③ 三つの単文を全て読み終えるのに要した時間が35秒以上
単音音読検査の①、②または単文音読検査の③、いずれかに該当した場合、継続した個別指導を実施

1－(6) その他のアプリケーションによる個別指導（隨時）

「音読アプリ1」・「音読アプリ2」

「音読指導統合版アプリ」はひらがな1文字がランダムに表示されます。児童がゲーム感覚でアプリケーションを楽しみながら学習できるように作られていますが、読むことへの困難が大きい児童や、集中の続きにくい児童においては、5分間取り組むことが難しい場合があります。

そのような児童には、下記のアプリケーションを活用することも効果的です。

音読アプリ1 「ビギナー編」



2～3文字の単語とその単語の示す絵が表示される。

音読アプリ2 「チャレンジャー編」



よう音が含まれる4文字までの単語とその単語を示す絵が表示される。

これらのアプリケーションによって、単語の読み（音）とイメージ（絵）を関連付ける学習を行うことができます。単語を聞くと、その音からイメージが思い浮かぶようになることは、読みの指導にとても大切です。文字と絵のイメージを関連付けて学習することができるので、文字だけの練習では十分な効果が得られない児童への指導に有効です。

必要に応じて使い分けて活用すると、より一層指導効果が上がります。



「音読アプリ1」 画面イメージ



「音読アプリ2」 画面イメージ

2-(1) 事例A

一斉指導の中では読みに課題があると思われていなかったAさん。しかし、第1回の音読検査で個別指導が必要と分かり、個別指導を開始しました。少しづつ読みが上達し、第3回の音読検査で個別指導は終了することができました。

児童Aの実態

- 元気で明るく、休み時間はいつも外遊びを楽しんでいる。
- 好きなことへの集中力が高い。
- 人懐こく、上級生からかわいがられている。一方で、友達とトラブルになった際に、自分の言ったことややったことをすっかり忘れてしまうことがある。
- 授業中に思ったことをすぐに口に出してしまったり、自分の好き嫌いでやる気が左右されたりすることが多い。
- 先が見通せないことや、未経験なことに対して不安がある。
- 1学期は音読において大きな課題は感じられなかった。



第1回 直音音読検査

- 音読よりも、書字や作文の課題が大きく、読みの課題は見過ごされていた。
- 音読検査を実施したことで、読みそのものにも課題があることが分かった。

1分間の音読文字数：52文字

第2回 単音音読検査

- これまで続けてきたアプリケーションで果て、前回の検査より首を傾げる回数がみ間違いも少なくなった。
- よう音はとても読みにくそうだったが、後まで取り組んだ。

音読時間：68秒 誤読数：5文字

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10



アプリケーションによる個別指導①(ひらがな直音)

- ICTを活用した学習の一つとして、学級全体に提示した。
- 個別指導は、放課後の時間を活用し、他の児童が帰った後に毎日実施した。
- 短時間で実施できるため、放課後の時間でも負担がない。友達との時間が減ることを嫌がっていたので、本児にとっては放課後の実施が適していた。
- アプリケーションを使った楽しい学習ができるということで、とても楽しんでいた。
- 1日1回の学習なので、「もっとやりたい」と言っていた。

成果

- 以前は授業中に分からなことがあると、落ち着かなくなったり、すぐ姿勢が崩れたりしていたが、読みがスムースになってきたことで、授業に集中できるようになってきた。
- アプリケーションの学習を始めてから、学習に対して自信が持てるようになった。
- 分からなことがあると、「分からない」とはっきり言えるようになり、一斉指導の中での意思表示が可能になった。
- 自分の考えを書いたり、発言したりすることが増えた。
- 長い文章を読む際は、まだ苦手そうな表情を見せることがあるが、段落ごとに分けて提示することで、最後まで音読することができるようになった。

課題

- △ 以前より読むことに対する抵抗がなくなってきたとはいえ、少し読みにくい課題に対しては集中が続かないことがある。引き続き実態を確認しながら、丁寧に読み書きの指導を行う必要がある。

第3回 単音・単文音読検査

- ・ 単音音読検査は49秒で読み終えることができ、約20秒も短縮できた。
- ・ アプリケーションでの練習により自信が芽生えたようで、自信を持って答えることができた。
- ・ 単文音読検査は「これでいいの」と不安そうな様子で取り組んだ。第1文の「さわってください」を「さわった」と読んだり、第3文の「赤い丸では」を「ハ」と誤読したり、2文字読み飛ばしたりした。

〔単音音読検査〕音読時間：49秒 誤読数：0文字

〔単文音読検査〕音読時間：32秒

第3回音読検査
の結果
個別指導終了

の学習成
績減り、読
懸命に最

月

11月

12月

1月

2月

3月

アプリケーションによる個別指導②（ひらがな単音）

- ・ 2学期末からは、学校と家庭それぞれでアプリケーションを使った学習を行った。
- ・ 学校と家庭双方での取組が相乗的な効果を生み、日に日に読む速度が速くなった。
- ・ アプリケーションでは次々に文字が出てくるので、そのタイミングに合わせ、大きな声で答えるようになっていった。
- ・ 間違えても気を落とさず、次の問題へ移ることができるようになり、集中が持続するようになった。
- ・ 自分から、今日はいつアプリケーションでの学習をするのかと聞いてくることが増え、個別学習への前向きな姿勢が見られるようになった。

2-(2) 事例B

ひらがなの学習を一通り終えても、読めない文字がいくつかあったBさん。行動が全体的にゆっくりなため、学習においても時間をかけて進める必要がありました。アプリケーションを活用した個別指導の効果はすぐに現れ、またたく間に読みが上達し、第2回の音読検査で個別指導は終了することができました。

児童Bの実態

- ・ 行動が全体的にゆっくりである。指示を聞き、すぐに行動することが苦手。
- ・ いつもにこにこしているので、困っていると友達が助けてくれる。
- ・ 学習への取組もゆっくりである。個別に言葉掛けをすることを取り組める。
- ・ 1学期末は、ひらがなの中で読めない文字や書けない文字があった。
- ・ 文章を書くのが苦手で、自分の考えを書く課題では「ない」と書くことが多い。



第1回 直音音読検査

- ・ 自分のペースで読み、一行読み終わるごとに担任の顔を見ていた。
- ・ 「なるべく速く読むように」と説明したが、緊張感がなく、自分のペースで読んでいた。
- ・ 読み飛ばしや読み誤りはなかったが、全体にゆっくりで、音読文字数は少ない結果となった。

1分間の音読文字数：38文字

4月

5月

6月

7月

8月

9月

1

アプリケーションによる個別指導①（ひらがな直音）

- ・ 一斉指導では、ゆっくりとしたペースではあったが、個別指導では、集り組むことができた。
- ・ 「し」と「じ」の発音が不明瞭だった。
- ・ 読み間違いに気付くとため息をもらし、言い直しをすることができなかつた。
- ・ 毎日5分間の学習を2週間継続して行い、全問正答できた時はとてもうな表情を見せていた。